

第61回日本臨床眼科学会

ランチオンセミナー

日時: 2007年10月12日(金)
12時20分 ~ 13時20分
場所: 国立京都国際会館 RoomE
京都市左京区宝ヶ池

「緑内障の顔が見えた」 —最先端の立体眼底カメラ—

座長 金沢大学大学院 医学系研究科 視覚科学(眼科)
教授 杉山 和久先生

「新しいステレオ眼底カメラ」

演者 金沢大学大学院 医学系研究科 視覚科学(眼科)
講師 大久保 真司先生

「3Dで緑内障性視神経乳頭を観察する」

演者 岐阜大学大学院 医学系研究科 眼科学
講師 石田 恭子先生

イブニングセミナー

日時: 2007年10月12日(金)
18時50分 ~ 19時50分
場所: 国立京都国際会館 RoomE
京都市左京区宝ヶ池

「視神経の構造的異常の早期発見、 早期治療を目指して」

座長 東京大学大学院 医学系研究科
外科学専攻眼科学 教授 新家 真先生

「視神経乳頭の立体観察を めぐる最近の話題」

演者 東京大学大学院 医学系研究科
外科学専攻眼科学 講師 富所 敦男先生

「発見できた緑内障の 治療とフォローについて」

演者 東北大学大学院 医学系研究科
眼科視覚科学分野 准教授 布施 昇男先生

モーニングセミナー

日時: 2007年10月13日(土)
08時00分 ~ 08時50分
場所: 国立京都国際会館 RoomB1
京都市左京区宝ヶ池

「Yellow眼内レンズの功罪と選択」 —基本的な考え方と選び方—

座長 眼科三宅病院
院長 三宅 謙作先生

「どのようなYellow眼内レンズを 選択すべきか」

演者 社会保険中京病院
眼科主任部長 市川 一夫先生

「Yellow眼内レンズ アバンシィの臨床経験」

演者 眼科三宅病院
副院長 太田 一郎先生

「今回の臨眼では、すべてのランチオンセミナーとフェアウェルセミナーで、混雑を緩和するため整理券が発行されます。整理券は、セミナー当日の午前7時半から11時まで、メインホール前のランチオンセミナー整理券コーナーで発行され、お一人様一枚限りです。整理券をお持ちでないと、ご希望のセミナーに入場できないことがありますのでご注意ください。なお、モーニングセミナー、アフタヌーンセミナー、イブニングセミナーは従来どおりです。」

共催 第61回日本臨床眼科学会
興和株式会社
興和創業株式会社



「緑内障の顔が見えた」 —最先端の立体眼底カメラ—



座長 金沢大学大学院 医学系研究科 視覚科学(眼科)
教授 杉山 和久先生

略歴

1984年	金沢大学医学部卒業、岐阜大学眼科入局	2000年	岐阜大学眼科助教授
1987年	岐阜大学眼科助手	2002年	金沢大学大学院医学系研究科視覚科学(眼科)教授
1990年	米国オレゴン医科大学眼科および		現在に至る
1992年	Devers Eye Institute留学		
1996年	岐阜大学眼科講師		

いかなる病型にせよ緑内障の基本病態は、「緑内障性視神経症」に帰結します。視神経の緑内障性変化は、検眼鏡的には視神経乳頭の陥凹拡大と乳頭辺縁部(rim)の幅が薄くなることであり、また、病理組織学的には篩状板の後方への湾曲と、視神経線維(axon)、視神経のグリア細胞と毛細血管の消失です。そして眼圧は、この緑内障性視神経変化を惹起することが臨床的には片眼高眼圧の続発緑内障で、実験的には猿眼の実験緑内障で知られた最も確実な危険因子です。

本講演では、「緑内障は基本的には視神経の病気である」との立場から、視神経乳

頭こそが、緑内障の病態・病状を如実に表す「緑内障の顔」であることを、症例を呈示しながら解説します。そして、緑内障の顔を良く把握するには、言い換えれば「緑内障性視神経症」の病態をよく把握するには、平面的観察よりも立体的観察のほうがはるかにすぐれています。

今回、KOWAが開発した最先端の立体眼底カメラは、いったいどのようなもので、どのように視神経乳頭がみえるのでしょうか。実際にセミナー参加者に立体的な「緑内障の顔」を体験していただき、二人の講師とともに緑内障診察の真髄を伝授したいと思います。

1 「新しいステレオ眼底カメラ」



演者 金沢大学大学院 医学系研究科 視覚科学(眼科)
講師 大久保 真司先生

略歴

1991年	鳥根医科大学卒業、金沢大学医学部眼科入局	2006年	金沢大学大学院医学系研究科視覚科学(眼科)講師
1996年	やわたメディカルセンター眼科医長		現在に至る
1997年	金沢大学大学院医学研究科修了		
2003年	金沢大学医学部附属病院眼科助手		

近年、緑内障診療において様々な画像解析装置が開発され、臨床に活用されてきています。しかし、最新の検査機器の早期緑内障検出能力はいまだ専門医が立体的に視神経乳頭を評価することには及ばないとされています。視神経乳頭を立体的に観察する方法には、双眼倒像鏡や、90Dやsuper fieldなどの非接触型前置レンズやGoldmann三面鏡、隅角鏡などを用いる方法がありますが、ステレオ眼底写真は視神経乳頭を立体的に観察でき、しかも記録に残すことができるので、緑内障の診断および経過観察に役立ちます。撮影角度の変わらない同時撮影のステレオ眼底写真が理想的ですが、通常の眼底カメラでも左右に平行移動して

片眼2枚撮影することによって簡単にステレオ眼底写真を撮影することができ、しかし、同時撮影でない場合は常に撮影角度が一定とは言えないので、正確に視神経乳頭の経時的な立体的変化を評価することは困難です。

興和の新しい立体眼底カメラは1回のシャッターで視差の異なる2枚の眼底写真を0.1秒間隔で撮影することができ、理論的には視差量が同じであるため手軽に理想的なステレオ眼底写真を得ることができます。

この新しい眼底カメラを用いて撮影したステレオ眼底写真を提示して、ステレオ眼底写真のすばらしさを伝えたいと思います。

2 「3Dで緑内障性視神経乳頭を観察する」



演者 岐阜大学大学院 医学系研究科 眼科学
講師 石田 恭子先生

略歴

1995年	富山大学医学部卒業	2004年	米国テネシー州立大学ハミルトン眼研究所留学
	岐阜大学医学部眼科入局	2005年	岐阜大学医学部講師
2001年	岐阜大学医学部助手、医学博士		現在に至る
2002年	岐阜大学医学部講師		
	米国マイアミ大学バスクムパルマー眼研究所留学		

緑内障は、眼圧因子を主とした発症・危険因子によりもたらされるミクロの神経節細胞死に始まり、次にマクロの視神経乳頭の形態的变化へと進行し、さらに客観的に評価が可能な視野障害の出現につながると考えられている。また、我々が日常診療で使用する動的視野検査やハンフリー自動視野計で視野異常が客観的に検出された時点で、既に半数近くの視神経が失われてしまっていることがわかっていることから、視野異常出現前に、あるいはごく早期異常の時点での確に乳頭所見を把握することこそが、臨床で緑内障を早期発見し、管理する第一歩であるといえる。

実際の診察では、緑内障ガイドラインからも、「乳頭陥凹を3次的に観察する立体観察が推奨される」また、「眼底変化の観察と記録に有効な方法の1つは写真撮影することであり、立体写真が取れば最良である」と述べられているように、元来立体構造を持つ視神経乳頭を、そのまま3Dカメラで撮影し、記録することは「緑内障の早期発見・診断及び管理」の観点から非常に理想的であると考えられる。

本セミナーでは、通常の2次元的な視神経乳頭写真と比較し、3D眼底所見で緑内障を観察するためのポイントと利点をお話したい。



緑内障・高眼圧症治療剤

ハイパジール^{コーワ}点眼液0.25%

指定医薬品 [ニブラジロール点眼液] 薬価基準収載

●効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等は添付文書をご参照ください。



製造販売元 **興和株式会社**
(資料請求先) 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元 **興和創薬株式会社**
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

07.9作成



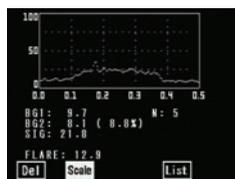
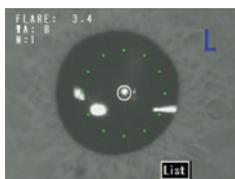
Technology for Life Science

FM-500の技術を受け継いで、さらに究極の操作性を追求

前房蛋白測定装置
レーザーフレアメーター[®]

コーワ FM-600

アライメントから測定結果まで4ステップで完了!



コンパクト

- 使いやすい卓上型
- 検者・被検者ともに優しい設計

拡張性・利便性

- 画像ファイリングシステム コーワ VK-2への出力
- 本体搭載の校正器による簡単キャリブレーション
- 明室カバー

シンプル&スピーディー

- 画面を見ながら操作
- 手元集中スイッチ
- 作動距離合わせ・測定アライメントのワンタッチ切換
- 測定結果、集計結果をモニターに表示
- 用紙交換が簡単なプリンター

測定原理

フレアの測定は、レーザー光散乱法を用いて行なわれます。前房にレーザー光を照射することにより、房水中のタンパクに反射した散乱光を、非接触・非侵襲で定量測定します。散乱光は、光電子増倍管を通じて光電変換され、蛋白濃度に比例した散乱光強度が、数値として計算されます。

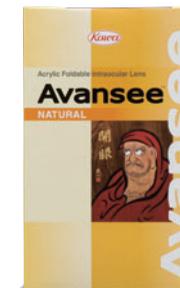
販売名: コーワ FM-600 特定保守管理医療機器
承認番号: 21700BZZ00356000

Acrylic Foldable Intraocular Lens

AvanseeTM

NATURAL

【眼内レンズ】 高度管理医療機器 販売名: アバンシー 承認番号 21800BZZ10026000



興和(株)は、2007年4月1日より(株)メニコンの眼内レンズ事業の営業権を譲り受け、(株)メニコンは開発分野に特化することになりました。



興和株式会社
電機光学事業部

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14
URL: <http://www.kowa.co.jp>

07.9作成